



小郡市立大原中学校 令和7年10月2日 第26号

大原中学校だより

「自走」と「協働」と「主体性」 校長 野中文明



【学校教育目標】自分の人生をよりよくするために、自分で考え判断し行動できる生徒の育成

学級主張大会が行われました。相互理解と仲間づくりのための大切な機会です。

温かく安心できる、素敵な雰囲気でした。

9月24日(水)、26日(金)の2日間で、学級主張大会が行われました。**相互理解と仲間**

互いの「思い」を
真剣に受け止めあおう

づくりのために、本校が大切にしている行事の1つです。私たちは、この学習を通して自分の生き方や価値観に向き合います。ですから、書く内容は自分が実際に体験したことです。今年のテーマは、『**互いの「思い」を真剣に受け止めあおう**』です。私は、この受け止めるという

ことが、相手との人間関係を築く上でとても大切なことだと思っています。相手の意見に対して、評価するのでもなく反論するのでもなく、ましてや否定するのでもなく、「そうなんだね。」と先ず認めることが、相手を受け止めることではないかと思っています。そう意味では、**皆さんは、とても温かく、安心できる雰囲気**で発表者の**思いを受け止め**ようとしていました。学級主張大会で感じた安心感を、私たちは学校中のあらゆる場面で再現できると確信しています。素敵な時間をありがとうございました。



中体連新人大会が開催されました。勝っても、負けても・・・すべてを成長の糧に！

陸上4人が地区大会、男子バレー部も優勝し地区大会！

9月13日(土)にブロック新人陸上大会、9月27日(土)に

ブロック新人大会が開催されました。夏の大会が終わり、3年生が引退してから約3か月間、1・2年生でこの大会を1つの目標として練習を積んできました。緊張やまだ試合慣れしていないなど、発展途上のチームですが、今ある力を精一杯発揮して試合に臨んでいました。結果は、陸上で

さん(女子2年800m)、さん(女子走り幅跳び)、さん(1年800m)

さん(女子2年8

さん(女子1500m)、男子バレーボール部も優勝で筑後地

区大会進出を決めました。おめでとうございます。陸上については、すでに9月25日(木)に地区大会を終えています。

さん(女子2年

800m)が県大会の出場権を得ています。男子バレー部とともにいい準備

を行って、次の大会へ備えてください。期待しています。





「凡事徹底」「無言清掃」は生かされていますか？

さて、地区大会へコマを進めることが出来なかった皆さん。皆さんのゴール

はここではありません。来年の夏です。ですので、是非、**今回の大会での経験を成長の糧**にして欲しいと思っています。そこで、以前から私が個人的に気になっていたことがあるので、伝えさせていただきます。それは、「自分たちの試合ができれば勝てます」という言葉です。「自分たちが積み上げてきた形を貫きます」という意味だと思いますが、私はこの「自分たちの試合ができれば」という勝つための条件を付けなくてほしいと思っています。絶好調の時なんか誰でも勝てます。でも相手はそうはさせてはくれません。上手くいかない、ペースが握れないなんかは想定内です。むしろ、初めから想定しておかなければならないと思っています。勝てるチームは、それでも勝つんです。そのためには、**どんな状況でも、例え追い込まれていても最低限、出来なければならぬことをきちんとできることが必要**です。スーパープレーなんか出たらラッキーで期待してはいけません。だから、普段から当たり前出来るプレーの**基準を上げる**んです。物事に動じない**メンタルを鍛える**んです。自分自身や周囲を見て**細かい所まで気付く力**を養うんです。最後にものをいうのは当たり前でできることの精度です。ただ、その力は一朝一夕に手に入るものではありませんし、そもそも、どこで身につけるのでしょうか？その場所の1つが学校です。私たちが、毎日、「凡事徹底」を掲げ、全員で「無言清掃」を行うのは、そのような力を身につけることに通じるからです。皆さんの「主体的」な**毎日の積み重ね**が、**あらゆる場面で生かされる大切な力**を身につけてくれます。

保護者の方から「親が言わないと何もやらなくて…」と聞くことがあります・・・。

PTA活動や地域の行事等、学校の内外で保護者の方にお会いして、お話しをさせていただく機会があります。お話をしていると、やっぱり皆さん、**ご自分のお子さんを愛してる**んだなあと感じます。話の入口は、謙遜されて「うちの子が迷惑をかけていませんか？」などから入ることが多いのですが、話の終わりはお子さんの良いところを聞かせてもらって終わることが多いです。家庭での様子やいい所を聞かせていただくと、とても嬉しくなります。そんな中で「親が言わないと何もしなくて困っています」という話を聞くこともあります。先日、『**「強み」を生み出す育て方**』（船津徹 著、ダイヤモンド社）という本を読んできました。その本によると、**子どもの意欲を低下させる原因の1つは、親の過干渉**だそうです。親の過干渉は、子どもからやる気を奪い、自立心を減退させ、人生に向き合う姿勢を後ろ向きにしてしまうそうです。私自身も3人の子育てをしましたし、子どもをコントロールしようとしていたので「ドキッ」としました。

- 子どもの身の回りの世話を焼きすぎる（服、食事、学校の準備など）
- 子どもにいつも命令口調で話す（～しなさい、～やったの?）
- 子どもの言葉をさえぎる、子どもに発言させない（親が答えてしまう）
- 子どもの宿題や課題を親がやってあげることが多い
- 子どもの習い事や進路を親が一方向的に決めている

親の「子どもが困らないように」と子どもを大切に思う気持ちは分かります。やることをやってくれないと困りますよね！でも、**本当は誰が困るのでしょうか？**上記を参考にして、自分を振り返って見ませんか？